

琉球大学でいご会について

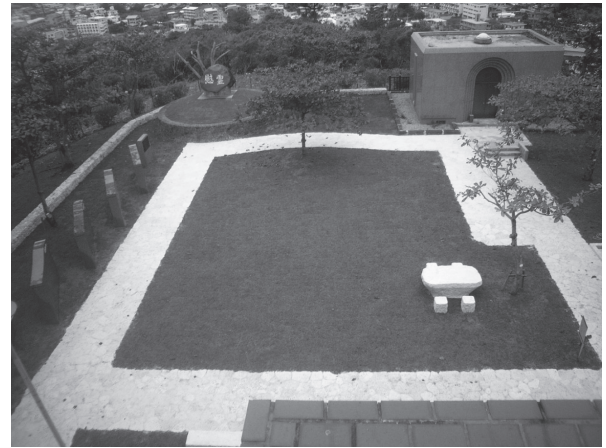
琉球大学大学院医学研究科 人体解剖学講座 教授 石田 肇



琉球大学医学部は、国立大学最後の医学部として、昭和54年に設置されました。解剖学実習を円滑に行うため、解剖体の確保が必要となり、医学部設置前に、献体団体としての琉球大学でいご会が発足します。まず、その歩みを紹介します。昭和52年12月19日琉球大学医学部設置に必要な解剖体の円滑な確保をはかるため、沖縄県解剖体確保推進協議会が発足しました。昭和54年2月20日、献体組織の結成に向けて取り組んできた結果、篤志家13名を発起人として琉球大学でいご会が設立されました。初代会長に白石武八郎氏、副会長に田頭政三郎氏、伊差川栄子氏が就任し、会員数はわずか13名でした。

昭和57年11月、第1期生の人体解剖実習が開始されました。昭和58年には、琉球大学でいご会機関誌「でいご」創刊号を発行します。その11月、第1回解剖体慰霊祭が、執り行われました。その後、平成2年6月教育用の解剖体が足りない状況の中、献体の確保を図るため、平田幸男教授（当時）と、東京医科大学内野滋雄教授（当時）の御尽力により、東京医科大学献体組織「東寿会」の深いご理解・ご配慮の下、協力を賛同された東寿会会員「でいご会協力会員」が新たに登録されました。平成2年～平成11年の9年間に亘り、ご協力頂いた協力会員数は115名です（うち献体者15名）。さらに平成17年第27回でいご会総会で、献体者顕彰刻銘礎石（仮称）建立に関する決議書（案）が、承認されました。そこで、建立委員会が設置され、砂川恵伸委員長の基、検討が続けられました。この「献体者の碑」の除幕式が、10月31日に伊地会長を始め、琉球大学でいご

会および東京医科大学東寿会関係者、御遺族、医学部長、附属病院長、教員や学生など100余名が参列して、医学部納骨堂敷地内で執り行われました。



献体者の碑竣工写真

これらの活動の結果、会員数は、ここ5年ほどは順調に増加し、平成24年7月1日現在で、会員総数2,343名、現存会員数1,670名となっています。また、これまでに献体なさった方は、441名にのぼります。

つぎに、琉球大学でいご会と琉球大学医学部での解剖関係の行事を紹介します。

琉球大学でいご会総会は、毎年、5月の第3土曜日に開催されます。開会の挨拶、黙祷のあと、会長の挨拶、医学部長の挨拶、篤志解剖全国連合会の報告、学生、卒業生が感謝の言葉を述べます。そのあと、医学講演をいただき、質疑応答のあと、昼食をいただきながら、室川子供エイサーや合唱などを楽しみます。

解剖体慰霊祭は、毎年、11月の第3水曜日

に医学部体育館で、開催されます。多数のご遺族、でいご会役員、医学部関係者が参列します。式は、医学部式歌の斉唱で始まり、黙祷の後、ご精霊の尊名が奉読されます。追悼のことは、琉球大学でいご会会長、琉球大学長、琉球大学医学部長が述べ、そのあと医学部学生代表が感謝の言葉を捧げます。最後に参列者全員による白菊の献花をおこないますが、長い列が続きます。

解剖学実習としては、2年次で系統解剖学実習、4年次には、局所解剖学実習を行っています。系統解剖学実習では、医学科の2年生の4人にご献体1体の割合で実習を担当させていただいています。現在の実習期間は、10月から2月までの5ヶ月で、午後の3時間あまりを使い、35回の実習を行います。これには、臨床の医師も参加しています。さらに、医療関係養成学校生の見学もこの間をぬって実施しています。具体的には琉球大学医学部保健学科学生、医学研究科修士課程学生、そして県内の医療関係養成学校生、とくに、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士養成課程の学生を対象としています。別の機会にも、4年生の臨床解剖学実習を行っています。このように、解剖学実習は、2年生にとっては、数年後の未来の医師を目指して基本を学ぶこと、4年生にとっては、臨床医学の基本を学んだあと、人体解剖学の知識を再確認することに役立っています。また、外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科や整形外科など臨床の医師にとっては、まさに明日の医療のためということになります。このように、解剖学教授自ら指導のもと、沖縄県全体の医療水準向上のため、しっかりと実習と見学を行っています。

琉球大学医学部では、実習が終わると、医学部火葬祭を実施します。場所は、いなんせ斎苑（浦添市いなんせ在）で催され、献体が火葬に

付され、ご遺骨がそれぞれのご遺族のもとに手渡されます。琉球大学医学部では、毎年度、解剖体の1柱ごとに、ご遺族、解剖学実習に携わった学生および大学関係者、でいご会会員の参加のもとで壮重な火葬祭を行っています。文部科学大臣の感謝状の贈呈、でいご会会長の弔辞、解剖学実習をした学生の謝辞、献花などを行い、火葬に付します。収骨にも参加し、ご遺族をお見送りして、解散となります。

今後の方向としては、外科系などの医療手技修練を、献体を用いて行うことが始まると思います。2012年に、日本外科学会と日本解剖学会とで、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」が発表されています。これに基づき、琉球大学でいご会の皆さまのご理解を得て、琉球大学医学部でも医療界に貢献できればと思っている次第です。

自分の遺体を無償で提供することです。

医師になるにはどうしても
人体の構造を理解しなければなりません。
人体の構造を良く理解した医師は、
病気の原因や、患者さんの具合の悪いところを
早く見つけ出して適切な治療を行ったり、
さらには予防することができます。
人体の構造を知ること、
それが医学の基礎といわれる解剖学です。
そして医学生が実際に人体を解剖して造化の妙を知り、
生命の尊厳に触れることの出来る唯一の場が解剖学実習です。
従って、献体は遺体を提供するにとどまらず
医師の倫理の面識に計り知れぬ大きな
役割を担っているといえましょう。

献体に御協力を

琉球大学 でいご会

連絡先
琉球大学医学部学務課内
琉球大学でいご会事務局
〒903-0215
沖縄県西原町字上原 207 番地
電話 098-895-3331 (内線 1032.)

